

## 「父、そして中国」

高山市立中山中学校 1年 瀬木 詩茉

今年の夏、私は母と弟と一緒に中国へ行きました。単身赴任している父に会うためです。

1年半前、父が中国に行かなければいけないと聞いた時、私はとてもショックでした。慣れない環境の中で、違う言葉を使う中国の人たちとうまくやっていけるか心配でした。母の仕事の都合もあり、離ればなれになる悲しさがありました。それとともに、テレビや新聞で知るだけの中国に対して、あまり良いイメージをもっていない自分がいました。でも、父は違いました。

「中国人と一緒に仕事をしていると、文化や習慣の違いに戸惑うこともあるけど、いろんな発見があっっておもしろいよ」と言っていたことを思い出します。私は今回の貴重な体験でいろいろなことを感じました。

まず飛行機に乗り、中国の青島空港に着くと、父と通訳のシーさん、そして運転手のタンさんが、「ようこそ、青島へ」と言って、私たちを笑顔で迎えてくださいました。二人は父の仕事のパートナーだと聞きました。今回、私たちのために忙しい中で観光の日程を考えてくださったそうです。私はそれを聞いて、とても嬉しくなりました。なぜ、見ず知らずの私たちに、こんなに親身になってくれるのだろう……。おそらく父との間に信頼関係が結ばれているからなのだと思います。

通訳のシーさんは、私たちと日本語で話すときは普通の口調なのですが、中国人の方と話す時の口調は喧嘩をしているかと思うほど大声でびっくりしました。中国語は、口から吐き出すように発音すると聞きました。言葉がわからない私たちには、そう感じられてしまうのです。

しかし、中国の人たちは誰もが気さくに話しかけてきました。最初に話しかけられた時、私は、外国人を狙う悪い人が近づいてきたのかと思い、怖くなりました。シーさんに尋ねると、

「入場券はこっちで売ってるって言ってます」

と、教えてくれました。シーさんは大声でその人としゃべっていて、タンさんは別の人と楽しそうに話をしていました。

「中国の人は、見知らぬ人でもこうやって気さくに話をするんだよ」

と、父が教えてくれました。私はそれを聞いて、偏見でものを見ている自分を恥ずかしく感じました。そして、こんなふうにフレンドリーにたくさんの人と話ができれば楽しいだろうなあ、と思いました。

こうしたことは、私たちの周囲の人間関係の中にもたくさんあります。「この人は変だから、無視しよう」「あの人は～だから仲良くしたくない」という考え方は、おかしいと思います。特に、出会って間もないのに、見た目だけで好き嫌いを判断してしまうのは、「偏見」なのです。だから、人と接するときはず、その人の良いところを少しずつ見つけていくことと、お互いに歩み寄る努力が必要だと思います。すると、「あ、この人って意外といい人なんだな」という考え方に変わり、その人と少しずつ近づいていけるのかもしれませんが。そして、お互いの関係も良くなり、仲良くなれるのではないかと思います。

日中関係や、日本とそのほかの外国との関係でも、同じことが言えるはずで、自分の国と他の国は、言葉や文化、習慣が違います。だからこそ、お互いの国の特徴を知り、理解し、違いが見えてきたなかでどのように関係を作っていくのかを考えることが大切なのだと思います。

今、中国の印象を「良くない」と感じている日本人が8割近くもいるそうです。一方、日本の印象については、やはり7割近くもの中国人が「良くない」と感じているといます。でも、その中で、「中国経済の発展が日本経済になくしてはならない」との理由で中国を大切なパートナーとしてとらえる日本人や、「日本製品は信頼できる」「震災時のみんなで協力する姿や、物事の正しい順序で動く日本人」を理由に、日本に良い印象をもっている中国の人たちもたくさんいるのです。

中国の日本料理店で、レジの横に東日本大震災の募金箱を見つけました。いろいろな国の通貨がたくさん入っていました。私も思わず募金をしてしまいました。なんだか世界の人たちの気持ちが一つになったようで、胸が熱くなりました。

どんなことでも、マイナスに考えずに、明るく前向きに考えれば、きっと差別や偏見をなくすこともできるはずです。お互いを思いやることで、世界中の人が笑顔になれるのです。

今回の旅行を通して、父、そして中国に対する私の印象は大きく変わってきました。偏見なく生きる父に、少し近づけたような気がします。